



虹ヶ丘

<https://kawasaki-edu.jp/2/511/nizigaoka/>

実りの秋

校長 井上 恵子

季節の移り変わりが激しくて体が悲鳴をあげそうです。子どもたちの服装には、ダウン、耳当て、マフラーなどが増えています。「まだ10月なのに」とつい言葉に出てしまうほど気温が下がりました。創立50周年記念式典まで、あと1週間。長きにわたり、休み時間やクラスタイムを使って練習をしてきました。子どもたちも、先生たちも、休み時間がないような毎日でした。最近1年生は、朝、外で思い切り体を動かして遊んでいます。8時25分ぎりぎりまで戻ってこないのですが、体を動かすことで気持ちを発散しているようですから、大目に見ています。

子どもたちには、当日までに自分が満足できるように仕上げをしてほしいと思っています。長い期間取り組んできたのですから、「どのように表現したいのか」「それには、どうしたらよいか」を自分で考えて行動すると満足度がアップすると思います。保護者の皆様は、11月6日の学習発表会を楽しみにしてください。

ご縁があって、本校に茂住菁邨先生をお招きすることができました。茂住先生は「時の人」です。平成から元号が変わる時、当時の菅官房長官が掲げた「令和」を書かれた方なのです。先生は大学に入学し、書道部に入ったことで書道の面白さを知り、「うまくなりたい」と相当な練習をしたそうです。大学からの推薦で内閣府に就職。ご本人は「字書き」とおっしゃいますが、大臣や内閣総理大臣などの辞令、国民栄誉賞の表彰状などを書くお仕事をされておりました。先生が書かれた表彰状などを見せていただき、当時のお話をたくさん伺いました。「好きなことをずっとやってやると、何かがあるのよ。」と生き方につながるお話も聞くことができました。現在は、書家としてご活躍です。

「好きな漢字・ひらがな一字」を色紙に書くことをゴールに授業をしていただきました。「筆と墨はとてもよいもので、墨で書いたものはずっと残る。だから、ルールもある。筆は立てる。しっかり4本の指を使って持つ。軸を回して墨を飛ばしてはいけない。」「上手・下手の線なんてものはない。」というお話を聞いてから、先生が一人一人にお手本を書いてきてくださったので、それを見て半紙に練習をしました。「手を持って一緒に書いてほしい人は手を挙げて。」と先生がおっしゃると、たくさんの子供が嬉しそうに手を挙げていました。「私は、あれはダメ、こうなさいは言いたくないのよ。」とおっしゃっていました。ただ、繰り返し子どもたちに伝えていたのは、「なんでこの字が好きなのかをイメージしてください。それは筆に伝わります。字の中に気持ちが入る。これは命を吹き込むということです。」と。

子どもたちは選んだ字を前のめりに練習していました。先生と一緒に書いた後は、運筆のリズム・スピード、字に変化が起きました。「先生、どのように書いたらよいか分かりました。」と授業終了後に感想を先生に伝えている6年生がいました。よい学習になりました。

私が心に残った先生の言葉は、「名前は、あなたたちのことを表します。雑に書いたら雑な人だと思われる。そう思われてよければ雑に書けばいい。心をこめて丁寧に書けば丁寧な人だと思われる。これが手書きの文字なんだよ。」です。私も子どもたちには、自分の名前を大切に書いてほしいと思います。そして、手書きのよさを感じてほしいと思っています。

11月、子どもたちの実りを、共に喜び合いましょう。そして、虹ヶ丘小学校創立50周年を共に祝いましょう。

